

工事擔當者の苦心談

内務技師 田吹行雄

一、倒壊物引揚工

將碁倒しに倒れて水中に没した岸壁を、さうして、取り除くか、之は至難な事で、先づ後ろから崩れ落ちた割石土砂の類を掃除しなければ混泥土塊を取り揚げる事は出来ない、その掃除にはあらゆる機械船を使用した、即ちブリストマン浚漉船、唧筒式浚漉船、ヂツパー式浚漉船、ウォシントンポンプ船等である。尙それでも、まぎろしくて潜水夫をして水中舂作業をさせた程だ。

水中舂作業は陸上で行う様潜水夫が水中で舂へ土砂を詰めたるを合圖によつて船上より綱を曳て深い所へ落すのである。

やつこ混泥土の面が出て來ても、互に迫り合つて居て引揚用のワイヤを懸ける事は出来ない、それに前方には面七十二平方尺長三十六尺毎に仕切つてある場所詰混泥土が横つて居るから、之れを先に取除かねばならぬ。之れは電導装置のカーリット火薬を用ひて約四尺毎に爆破切斷したが、之れにも中々苦心した、それこ云ふのも水中の事だから水密の點を餘程甘くやらねば不發し易い。それに一度に五、六發も爆破するのだから、それに要する澤山のコードの連結も複雑なものであつた、この場所詰混泥土を取除いて後始めて方塊を端の方から順々に取り上げるのだが、この目地にワイヤを挿入するに潜水夫は中々骨折つた。ウォーターゼットにより或はハツカーに依り目地を掃除した後には方塊を損するが、其の目地に小さな楔形のカーリットを装填して小爆破に依り方塊を動搖させ目地を開かせてワイヤを懸けた。

二、作業船の輻輳

各岸壁を片端から一つ一つ仕上げて行く爲め、

一ヶ所に非常に多くの作業船を使用せざるの止むを得ざる時、其作業船の繰廻しは現場員の最も苦心する所であつて、即ち其内一艘を動かすにしても他の船の邪魔にならざる様にするは勿論、その跡に直に他の作業船を廻して順序良く作業を繼續するに努めなければならない。それで各船の配置は各係員の最も苦心する所の一であつて、毎日夕刻水中爆破時間（水中爆破の際危険なるを以て一時作業を中止して避難する僅の時間）を利用して集合し翌日の豫定を打合せたのである。それに水中爆破の時は其附近の船を一時轉船せなければならないし、爆破の近傍や浚漉船の附近は海水が濁つて潜水作業が出来ないから爆破は一日に正午ミタ方ミ二度、浚漉船は其の都合により夜を徹して作業するなき其遺練に非常なる苦心をした。

三、豫定期間内に竣功

吾々土木工事施行者に於て、豫定期間内に工事を仕上げることは非常なる努力を要するもので、殊に此の大工事の復舊を一ヶ半年で、やつてしまおうと計畫したのは普通の土木工事豫定と非常に其の趣きを異にして居る。何しろ、めつたにない（又あつては大變だが）大震災の爲めに壊されてしまつた港灣工事の復舊だから、そう容易く見當の付くものではない。工事途中に幾多稀有の難工事に出合つたか數知れぬ。其れに、何でもかんでも、やつてしまわなければならないので晝夜寒暑の差別なく、各工事毎に理が非でも命ぜられた期日迄に竣功させること云ふ確信の下に、潜水夫の數を増し、或は四方から集まる人夫の經驗、無經驗を不問、之れを同一に指導鞭達し或は器具機械を増加し、亦機械船の故障を未然に防ぐに努力するなき、懸命にやつてのけたのである。